

学 位 論 文 要 旨

氏 名 戸 田 竜 也

題 目 自閉スペクトラム症児者の学校不適応感をもたらす心理的メカニズム

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本論文は、自閉スペクトラム症（Autism Spectrum Disorder：ASD）児者が抱える学校不適応感の形成プロセスを明らかにすることを目的としている。特に、ASD 児者の心の理論（Theory of Mind: ToM）の特異性が、学校不適応感に関与しているかについて、臨床的・実証的な観点から検討を行った。

第1章では、ASD の原因論や心の理論に関する先行研究を概観するとともに、学校適応に関する従来の議論を整理した。筆者はスクールカウンセラーとしての臨床経験から、2つのクリニカルクエッションもった。1つは「思春期における ASD 児者の社会的相互作用の困難は、それ以前の時期と質的に異なる固有のものではないか、そしてそれは心の理論の獲得と関連しているのではないか」という点である。2つには「ASD 児者は彼らなりに学校環境への適応を試みるが、心の理論の特異性により学校不適応感をもたらすのではないか」という点である。これらを検証するため、本研究では3つの研究目的と仮説、およびそれらを統合した仮説モデルを提示した。

第2章では、中学生を対象とした質問紙調査により、ASD 傾向が学校適応感に与える影響を検証した。学校適応感の低下を媒介する要因として「自尊感情」と「社交不安」に着目した。分析の結果、ASD 傾向は直接的に学校適応感を下げるだけでなく、「自尊感情」の低下および「社交不安」の高まりという心理的プロセスを介して、学校適応感の主要な構成要素である「友人との関係」や、周囲に溶け込んでいるという気楽さや快適さである「居心地の良さの感覚」に負の影響を与えていることが示された。一方で、教師が自分を理解し、支持的にかかわってくれているという「教師との関係」が良好であると認識されている場合には、それが「友人との関係」に肯定的な影響を及ぼすことが明らかとなった。この結果は、ASD 傾向の子どもにとって、自尊感情を維持し不安を軽減させる周囲の環境調整や心理的支援が、学校適応において極めて重要であることを示唆している。

第3章では、ASD児者の自伝を対象として質的分析を行い、自尊感情と心の理論の特異性との関連を検討した。分析の結果、ASD児者は定型発達(TD)児とは異なるプロセスで心の理論を獲得していることが確認された。TD児は比較的早期に直観的心理化を獲得するのに対して、ASD児者は9歳から10歳前後という遅い時期に、ある日突然、命題的心理化のみを構成する。この心の理論の獲得は、自己を客観視し他者の感情を命題的に理解することを可能にする一方、自尊感情の低下を招く要因となっていた。具体的には、①自己を客観的に理解すること、②他者からの否定的な評価や叱責の内面化、③理想自己と現実自己の乖離、という3点が要因として抽出された。これらはいずれも、ASD児者の心の理論の特異性と関連していると考えられた。

第4章では、心の理論獲得後にASD児者が用いる社会的相互作用の方略を明らかにするとともに、学校不適応感の形成につながるプロセスを検討した。ASD児者は、直観的心理化が欠けていることを補うため、他者の感情反応を帰納法的に整理して一般化し、それをマニュアルのように運用する独自のコミュニケーション方略を用いていた。しかし、この命題的心理化による代替には相当な労力を必要とし、常時補強や修正を必要とするため、ASD児者に大きな負荷がかかっていた。また、他者との間に齟齬が生じるのではないかという不安とプレッシャーにさらされる状況は、深刻な身体的・精神的ストレスを生じさせていた。さらに、こういった方略以外にもカモフラージュ (social camouflage) の状態を引き起こしていた。具体的には、自らの本音を抑圧し、周囲に合わせて振る舞うことであり、外見的には適応しているように見えても、内面的には自己の否定となり、自尊感情を大きく低下させていた。

第5章では、各研究の結果を統合し、ASD児者の学校不適応感もたらす心理的プロセスについて包括的な考察を行った。本研究全体をとおして明らかになったのは、ASD児者の学校適応における外的な適応と内面的な不適応の乖離という矛盾した状況である。心の理論を獲得し、他者との違いを客観的に理解できるようになり、ASD児者は「本物の人間になりたい」と願い、自らを抑圧して環境に適合しようとしていた。しかし、一般化した法則やカモフラージュといった適応への努力は、自尊感情を大きく低下させ、学校不適応感をもたらしていた。

本論文は、ASD児者の学校不適応感をもたらす心理的プロセスとして、心の理論の特異性ととともに、自尊感情の低下が大きく関与していることを示した。今後、教育における支援において、なかなか可視化されづらい心の理論の特異性を含めたASD特性への理解とともに、一人ひとりの主観・内面をふまえた自尊感情に焦点を当てることの重要性を強調した。